

# 中間報告書

2020年6月1日～2020年11月30日

第40期

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。さて、当社は2020年11月30日をもって、第40期第2四半期累計期間(2020年6月1日から2020年11月30日まで)が終了いたしましたので、ここに営業の概況につきましてご報告申し上げます。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2021年2月

代表取締役社長兼COO 長野 庄吾



## 営業の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大が第2波、第3波として現れるなど、未だ終息の見通しが立たない中、政府によるGo ToトラベルやGo Toイートなどの消費喚起事業により一部で景気回復の兆しが見えたものの、個人消費や雇用環境は厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の下、当社グループはリーディングカンパニーの最大条件を「ファンの多さ」と定義づけ「ファンづくり」を経営最大のテーマとして経営理念の実践を重ねております。

当第2四半期連結累計期間のBtoC事業では、TVショッピングにおいて2020年度新作版の「スピードヒート温熱ベスト」や「ステップエイト(場所に合わせて8通りに変化する脚立)」、「エアーヨーン(自動で膨らむベッド)」等が堅調に推移いたしました。一方では、SKINFOOD店舗は新型コロナウイルス感染予防による外出自粛などの影響により来店客数が減少し苦戦が続いております。SKINFOOD直営店の開設及び閉店はなく、その店舗数22店舗(前年同四半期21店舗)、フランチャイズ店は1店開設し4店舗(前年同四半期2店舗)の合計26店舗(前年同四半期23店舗)となりました。

BtoBtoC事業では、前第2四半期連結累計期間と比較して、外出することなく安心・安全な商品を購入することができる生活協同組合での買い物が支持される中、当社におきましても生協ルートでの食品類が大幅に増収いたしましたほか、同じく通販ルート、海外ルートが増収となり、店舗ルートは減収となりました。

その他では、チャットシステム「M-Talk」の新規導入とユーザーの増加に伴う売上増により、増収いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高11,091百万円(前年同四半期比25.9%増)、営業利益534百万円(前年同四半期比193.4%増)、経常利益534百万円(前年同四半期比195.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益323百万円(前年同四半期比194.6%増)となりました。

各セグメントの業績は次のとおりです。< BtoC事業 >

売上高は、SKINFOOD店舗において来店客数の減少により店舗での売上高は減収となりましたものの、TVショッピングで「スピードヒート」、「ステップエイト」等がヒット商品となり売上を牽引いたしましたことから、4,989百万円(前年同四半期比54.8%増)となり、営業利益は364百万円(前年同四半期比79.2%増)となりました。

< BtoBtoC事業 >

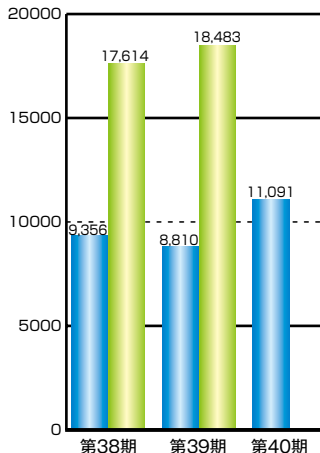
売上高は、外出することなく買い物ができる生協ルート及び通販ルートでの食品類の売上が好調に推移いたしましたことから5,920百万円(前年同四半期比8.2%増)となり、営業利益は132百万円(前年同四半期は24百万円の営業損失)となりました。

< その他 >

その他は、引き続き営業強化に取り組んでおりますWEB上でお問い合わせができるチャットシステム「M-Talk」及び音声通話録音システム「VOISTORE」等の売上高であり、売上高は181百万円(前年同四半期比54.7%増)となり、営業利益は17百万円(前年同四半期は12百万円の営業損失)となりました。

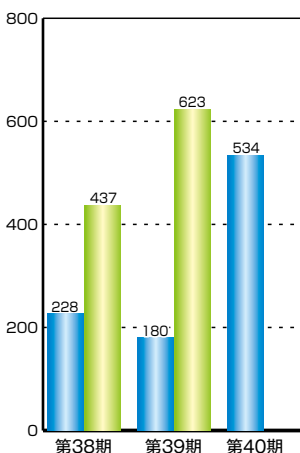
## 売上高

(単位:百万円)



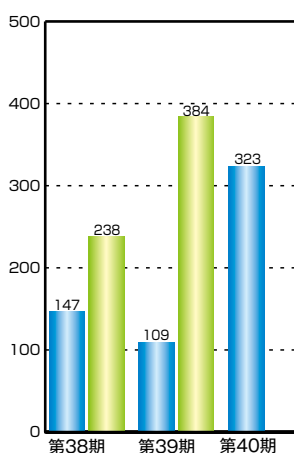
## 経常利益

(単位:百万円)



## 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益

(単位:百万円)



# セグメント情報等

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額(注1)	四半期連結 損益計算書計上 額(注2)
	BtoC事業	BtoBtoC事業	その他	計		
<b>売上高</b>						
外部顧客への売上高	4,989,124	5,920,999	181,499	11,091,624	—	11,091,624
セグメント間の内部売上高 又は振替高	157,362	81,871	0	239,234	△ 239,234	—
計	5,146,487	6,002,871	181,499	11,330,858	△ 239,234	11,091,624
<b>セグメント利益</b>						
	364,116	132,430	17,424	513,971	20,347	534,318

(注) 1. セグメント利益の調整額20,347千円は、連結消去に伴う調整額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

（単位：千円）

## 資産の部

**流動資産：6,988,279**

（前期末比：719,352増）

**固定資産：1,034,164**

（前期末比：66,107減）

## 負債・純資産の部

**流動負債：3,736,793**

（前期末比：654,321増）

**固定負債：1,229,277**

（前期末比：247,816減）

**純資産：3,056,371**

（全期末比：246,740増）

### 資産、負債及び純資産の状況

#### （資産）

当第2四半期連結会計期間末の流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ719百万円増加しました。主な流動資産の変動は、「受取手形及び売掛金」が322百万円、「商品及び製品」が405百万円、それぞれ増加したこと、「現金及び預金」が26百万円減少したことによります。

当第2四半期連結会計期間末の固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ66百万円減少しました。主な固定資産の変動は、「有形固定資産」が11百万円、「投資その他の資産」が47百万円、それぞれ減少したことによります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の総資産は8,022百万円となり、前連結会計年度末に比べ653百万円増加しました。

#### （負債）

当第2四半期連結会計期間末の流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ654百万円増加しました。主な流動負債の変動は、「短期借入金」が460百万円、「未払金」が205百万円、「買掛金」が78百万円、それぞれ増加したこと、「1年内返済予定の長期借入金」が119百万円減少したことによります。

当第2四半期連結会計期間末の固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べ247百万円減少しました。主な固定負債の変動は、「長期借入金」が254百万円減少したことによります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の負債は4,966百万円となり、前連結会計年度末に比べ406百万円増加しました。

#### （純資産）

当第2四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ246百万円増加しました。主な純資産の変動は、「利益剰余金」が236百万円増加したことによります。

## 四半期連結損益計算書（要旨）

（単位：千円）

科目	前第2四半期累計期間 （自 2019年6月1日 至 2019年11月30日）	当第2四半期累計期間 （自 2020年6月1日 至 2020年11月30日）
売上高	8,810,457	11,091,624
売上総利益	4,199,933	5,835,892
営業利益	182,082	534,318
営業利益率	2.1%	4.8%
経常利益	180,980	534,445
経常利益率	2.1%	4.8%
親会社株主に帰属する四半期純利益	109,776	323,423

（注） 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 四半期連結包括利益計算書

（単位：千円）

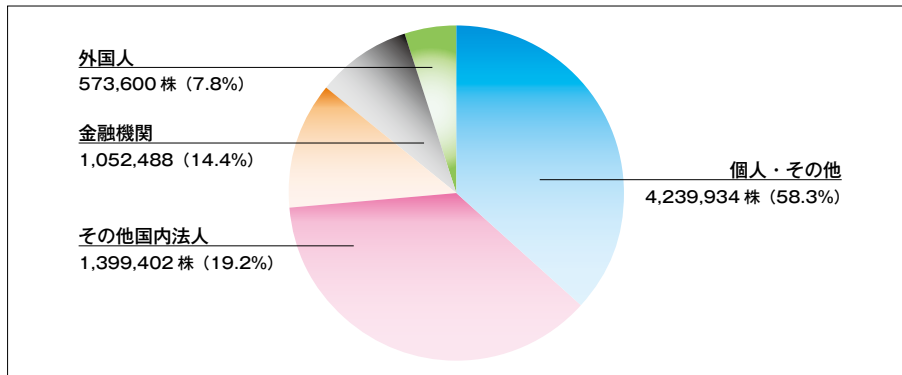
科目	前第2四半期累計期間 （自 2019年6月1日 至 2019年11月30日）	当第2四半期累計期間 （自 2020年6月1日 至 2020年11月30日）
四半期純利益	108,578	323,401
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,674	△ 708
為替換算調整勘定	△ 403	526
その他の包括利益合計	2,271	△ 182
四半期包括利益	110,849	323,219
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	112,047	322,154
非支配株主に係る四半期包括利益	△ 1,197	1,064

（注） 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(1) 株式に関する事項

- ① 発行可能株式数 31,065,600 株
- ② 発行済み株式数 7,808,000 株 (自己株式 542,576 株を含む)
- ③ 株主数 5,128 名

所有者別状況



(注) 1. 自己株式 (542,576 株) を控除しております。

(2) 大株主に関する事項

株主名	当社への出資状況	
	持株数	持株比率
株式会社AM	1,140,000	15.69
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口)	326,500	4.49
MSIP CLIENT SECURITIES	237,600	3.27
飯田 裕	226,700	3.12
鬼頭 洋介	213,000	2.93
アイケイ取引先持株会	143,000	1.96
株式会社SBI証券	142,812	1.96
株式会社りそな銀行	128,000	1.76
飯田 清子	124,000	1.70
堀正工業株式会社	120,000	1.65

(注) 1. 持株比率は自己株式 (542,576 株) を控除して計算しております。

2. 持株数は持株名簿に基づいて記載しております。

## ■ BtoC 事業

BtoC事業では、TV・EC・店舗で自社開発商品の販売を行ってまいりました。新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う外出自粛により、店舗での売上は減少いたしました。TVショッピングでは、巣ごもり需要もあり、「スピードヒート温熱ベスト」や「ステップエイト」といったヒット品に恵まれ、業績は好調に推移してまいりました。

### ◆TV・EC

TVショッピングでは、夏から秋にかけて、8段変形脚立「ステップエイト」、自動で膨らむ空気ベッド「エアーション」の販売に注力いたしました。冬期は、10月より販売を開始した「スピードヒート温熱ベスト」が2ヶ月間で約11万着を売り上げるなど、売上を大きく伸ばし、当社グループの業績に大きく寄与いたしました。



スピードヒート温熱ベスト

### ◆店舗

#### ・SKINFOO化粧品

店舗では今期はアミュプラザ宮崎にFC店舗をオープンし、直営22店舗、FC4店舗の合計26店舗となりました。また、ECでの販売にも注力し、ブランドの認知度向上に努めてまいりました。



アミュプラザ宮崎



商品名左から黒ザクロ スキンケアライン・キャロット カロテンライン・プロポリス クッション ファンデーション

#### ・OLIVE YOUNG

今期より新たに韓国で1,200店舗を展開するH&Bストア「OLIVE YOUNG」のPB化粧品の総代理店契約を結び、ZOZOTOWNおよび国内3箇所に日本初のポップアップストアを展開するなど、「OLIVE YOUNG」商品の認知度向上に注力してまいりました。今後も更なる売上拡大を図ってまいります。



日本初のポップアップストア (新宿ルミネエスト)



商品名左から・fili milli (フィリミリ) ・BRING GREEN (ブリンググリーン) ・ROUND A ROUND (ラウンドアラウンド)

## ◆ BtoBtoC 事業

BtoBtoC事業では、生協・通販会社・店舗(ドラッグストア等)・海外へと「美しく生きる・健康に生きる・楽しく生きる」をキーワードとした自社開発商品の開発・販売を行い、経営理念であります「ファンづくり」に注力してまいりました。

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う、巣ごもり需要もあり、生協、通販ルートでの食品の売上が好調に推移いたしました。

### ◆ CAWAIDEA のブランド始動

CAWAIDEA(カワイデア)ブランドは、「あったら便利。出会って改めて気づく、女子たちのちょっとした悩みをさらっと解決。可愛いをコンプリートするコスメ。」をコンセプトとして発足いたしました。

「マスクティント」はマスクに色移りしにくいリップとなっており、飲食時のとっさのマスク外しにも「かわいい」を印象付けることができます。



CAWAIDEA  
(左 マスクティント、右 アホモフォクサー)

### ◆ 好調の食品企画

新商品として“まいにちシリーズ”4品をリリースいたしました。ありそうでなかった、使いやすい形や価格を実現し、全国の生協を中心に拡販をはかりました。またEC販路ではAmazonにて「バターコーヒー」シリーズを発売。サイト内での販売プロモーションを進め、順調に売上を伸ばしております。



まいにちシリーズ  
(左から：粉末になった北海道産オリゴ糖 / 国産素材のごぼう玉ねぎ菊芋茶 / 国産きくいもが入った野菜イヌリン / だしのきいた健酵みそ汁)

## ◆ 今後の展望

### ◆ BtoC 事業

T V ・ E C : ①新商品のテストマーケティングの実施(年間12商品程度)

②ヒットの芽が出つつある商品の映像ブラッシュアップ

店 舗 : ①SKINFOOD オンライン販売の強化(自社サイト、楽天、ZOZOTOWN、Qoo10)

②OLIVE YOUNG ポップアップ店舗の出店増、公式サイト開設

### ◆ BtoBtoC事業

①生協・通販ルートでの販売拡大(好調の食品企画の更なる拡販)

②LB、たまご化粧品、CAWAIDEA化粧品の導入店舗数拡大

③TVショッピングのヒット商品をホームセンターへの卸売拡大

④中国マーケットの徹底攻略





## 会社の概要 (2020年11月30日現在)

商号	株式会社アイケイ (I.K Co.,Ltd.)
資本金	401,749 千円
代表者	飯田 裕、長野庄吾
設立	昭和 57 年 5 月
従業員数	137 名
連結従業員数	289 名
本社	〒 450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目 26 番 8 号 KDX名古屋駅前ビル TEL (052) 856-3101 (代表) FAX (052) 856-3120 URL <a href="https://www.ai-kei.co.jp">https://www.ai-kei.co.jp</a>
東京支社	〒 104-0061 東京都中央区銀座一丁目 7 番 3 号 京橋三菱ビル 7 階 TEL (03) 5159-5355 FAX (03) 5159-5359
(本店)	〒 453-0809 名古屋市中村区上米野町四丁目 20 番地
役員	代表取締役会長兼 CEO 飯田 裕 代表取締役社長兼 COO 長野 庄吾 常務取締役 高橋 伸宜 取締役 熊澤 敬二 取締役(常勤監査等委員) 近藤 さきえ 取締役(監査等委員) 和田 圭介 取締役(監査等委員) 菅生 新



## 株主メモ

事業年度	毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会	毎年8月中に開催
剰余金の配当の基準日	期末配当：5月31日 中間配当：11月30日
証券コード	2722
上場金融商品取引所	東京証券取引所（市場第一部） 名古屋証券取引所（市場第一部） (注) 2020年12月4日を持ちまして東京証券取引所及び名古屋証券取引所 市場第一部銘柄に指定されました。
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711（通話料無料） 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告方法	当社の公告方法は、電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由が生じた時は、日本経済新聞に掲載して行うこととしております。 <電子公告掲載ページアドレス> <a href="https://www.ai-kei.co.jp/ir/koukoku">https://www.ai-kei.co.jp/ir/koukoku</a>

### (ご注意)

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)に、お問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

